第３章　三和町の目指す姿とその実現のための政策

基本理念：50 年後も残る三和町！

基本理念が示す三和町の目指す姿

○全国的な人口減少傾向の中で、三和町も右肩上がりの人口増加は見込めない状況であり、現実的な施策を考えていくために、作業部会ではアンケート結果や統計データを分析してきました。その結果として、三和町の小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持に直結することを導き出しました。

○統計データから推計した結果、「毎年 1 組の親子を増やす」かつ「若者の流出率を 0.1 ポイント改善」「出生率をいわき市並みにする」この 3 つの条件を達成することで、25 年後、人口は約半減しますが（2,600 人→1,300 人）、次世代を担う 14 歳以下の人口は 100 人台を維持できます（150 人→100 人）。

○アンケート調査からわかった、三和町の強みである「人」「学校」「環境」を重点戦略として活用し、弱みなどから抽出した課題を重要施策として解決していくことで 2023 年の人口数を維持し、「50 年後も残る三和町！」を目指します。

○この目指す姿を実現するため、以下の 3 つの数値目標を設定し、第 2 節で定める重点戦略に基づいて各種施策を実施し、数値目標の達成に向けて取り組みます。

No.	数値指標	現状（2023）	目標
1	毎年 1 組の親子を増やす	なし	毎年 1 組
2	若者(15 歳～24 歳)の流出率を 0.1 ポイント改善	男：0.7 女：0.6	男：0.8 女：0.7
3	出生率（子供女性比率）をいわき市並みにする	0.25	0.34

施策体系図

基　本　理　念

50年後も残る三和町！

重点戦略①
三和町の
素晴らしい人
を活かす

重点施策

(1) 人のつながりの再構築

(2) かっこいい農林業ができる場所としてＰＲする

(3) 最適な人間関係を目指して

(4) つながりを活かした防災

(5) 様々な移住を受け入れる

重点戦略②
三和町の
素晴らしい学校
を活かす

重点施策

(1) 通学の利便性

(2) 学校を拠点とした新しい取組みによるにぎわいづくり

(3) 様々な移住を受け入れる【再掲】

重点戦略③
三和町の
素晴らしい環境
を活かす

重点施策

(1) 快適な住環境を目指す

(2) 交通の便の良さをＰＲ

(3) 次世代の買い物方法の活用

(4) 地域の拠点をつくる

重点戦略及び重点施策

第２章で分析した三和町を取り巻く課題を解決し、本構想の基本理念を達成するため、重点施策を複合的に実施する体系として３つの重点戦略を定め、三和町のまちづくりの指針とします。また、本構想においては、三和町のまちづくりにおいて特に力を注ぐべき重点施策を定め、その進行管理、経過管理及び成果把握のため、実施指標※を設定しています。

※実施指標

重点戦略に基づいて施策を実行していく中で、状況の経過管理を行う指標です。数値目標は設定せず、実施したかどうか、また結果としてどのように状況が変化しているのかを確認します。

重点戦略①	三和町の素晴らしい人を活かす
戦略概要	三和町の素晴らしい人を活かし、新たな交流を生む拠点の整備やコミュニティを作ること、地域への移住を促進することなど、三和内外の人々と活気ある三和町を作っていきます。

【重点施策】

(1) 人のつながりの再構築

施策１各地区のお祭りを残していく

・お祭りを次世代に伝えていくことは、地域の文化や歴史を守ることにつながります。

・お祭りは、その地域出身の人が戻ってくる機会となることから、お祭りの場が地域に住む人と出身者との交流の場となることが期待できます。

【実施指標】……現状：維持　目標：維持

(2) かっこいい農林業ができる場所としてＰＲする

施策２先進的な技術のＰＲ

・機械やドローンを活用した農林業をＰＲすることにより、都市部ではできないかっこいい職業として、若者に魅力を伝えます。

【実施指標】…… 現状：していない　目標：した

施策３木材資源の有効活用

・三和町内の豊かな森林資源を活かし、特産品をつくる等、新たな可能性を模索しながら、持続可能な林業を目指します。

【実施指標】…… 現状：していない　目標：した

(3) 最適な人間関係を目指して

施策４新しい近所づきあいの模索

・様々な世代がお互いに歩み寄り、現代の多様なライフスタイルに合ったいい距離感で交流できる環境の構築を目指します。これにより、新たな住民も安心して暮らせる環境が整うことが期待できます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

(4) つながりを活かした防災

施策５地域外との絆を強化

・市から指定されている避難場所となっている他地域との旅行等を通じた交流を行い、あらかじめ情報共有や協力体制を作ることを通じて、市外避難を求められるような、大災害時におけるスムーズな連携体制をとれるような対策を進めます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

施策６防災訓練のイベント化

・三和町体育祭や三和の里フェスティバル等の地域のイベントとして地域の人々が気軽に参加できる形で防災訓練を実施します。

・イベントとして楽しみながら防災意識を高めます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

(5) 様々な移住を受け入れる

施策７移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成

・三和町に住んでもらうことは、三和町の活性化に直結します。新たな住民が増えることで、経済や文化が活発化し、地域全体の力が高まります。

・男女問わず、年齢層問わず、独身、夫婦問わず、職業問わず、生き方の多様化を受け入れ、どんな形であってもいいので、三和町に住んでもらいたいという地域住民の意識を持ってもらうことを期待します。

・小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながることから、子育て世代の移住を期待します。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

重点戦略②	三和町の素晴らしい学校を活かす
戦略概要	三和小中学校（以下「学校」と言います。）は、三和町に根差した教育を提供しており、地域を知ることは、子供たちにとって多くの利点があるといえます。三和町の素晴らしい学校を活かし、三和町の小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながります。

【重点施策】

(1) 通学の利便性

施策８小中学校通学バスの維持

・通学バスの維持により、子供たちは安全かつ効率的に学校へ通うことができます。

【実施指標】……現状：維持　目標：維持

施策９高校進学後の送迎体制の確立

・親の送迎のみに頼らず、公共交通機関等を活用した送迎体制が確立されることで、三和に住む生徒たちは安心して通いたい高校へ進学することができます。

【実施指標】……現状：なし　目標：確立

(2) 学校を拠点とした新しい取組みによるにぎわいづくり

施策 10 三和町大同窓会（三和町版ホームカミングデー※）の開催

・三和の里フェスティバルなどの実施に合わせ、学校敷地内において、三和町大同窓会（三和町版ホームカミングデー）を開催し、在校生のみならず、卒業生や地域の人々も参加し、様々な交流を行うことができる機会をつくり、地域の絆の再構築につなげます。

・参加者は、仕事や趣味、地域活動などでつながりを持ち、地域の結束が強まることが期待できます。

・学校の施設や教育環境を気軽に見学できる機会となり、入学希望者やその保護者に対して、学校の魅力を広くアピールすることができます。

・三和町と学校の交流や連携を強化することができ、子供たちの成長と学びをサポートすることができるイベントとなりえます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

※ホームカミングデーとは

高校や大学が卒業生を招待して行うイベントで、卒業生が母校を訪れ、現役の学生や教職員と多彩なプログラムを通じて交流を深め、母校への愛着、将来の協力関係を育むための重要な機会となっています。

その発祥は、1911 年にアメリカのミズーリ大学で開催されたイベントとされており、この概念は世界中の多くの大学等で採用され、日本においても卒業生と在校生の交流を深めるイベントとして人気を集めています。

(3) 様々な移住を受け入れる【再掲】　※実施指標は重点戦略①で管理

施策７移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成【再掲】

・小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながることから、子育て世代の移住を期待します。

重点戦略③	三和町の素晴らしい環境を活かす
戦略概要	三和町の素晴らしい環境を活かすことが、三和町の持続的な発展と地域社会の活性化の実現につながります。

【重点施策】

(1) 快適な住環境を目指す

施策 11 空き家や高齢者のみの家の活用

・空き家を居住用に活用することにより、空き家の管理や維持、地域の美化に寄与することができ、地域の空き家問題を解決することができます。

・子育て世代等の移住者が空き家や高齢者のみが居住する家をシェアハウスやシェアルームとして活用し、複数の世帯が共に住むことで、新たなコミュニティが形成されます。

【実施指標】……現状：なし　目標：活用

施策 12 実家もしくは実家周辺に住んでもらう「ふるさと回帰」の推奨

・三和町出身者が地域に戻ることは、地域にすぐ溶け込むことができるため、知らない土地に居住するよりは、移住に対するハードルが低いといえます。

・土地代等の経済負担が軽減されるメリットがあります。

【実施指標】……現状：なし　目標：実施

施策 13 光通信が整っていることを PR

・高速インターネット通信環境が整備されていることを広くＰＲし、働く場所を選ばないノマドワーカー等の移住に寄与します。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

(2) 交通の便の良さをＰＲ

施策 14 ライドシェア※の活用

・経済的で便利な移動手段として、地域内外からのアクセスの向上が期待できます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

施策 15 大きな道路があることをもっと PR

・国道 49 号線や 349 号線、磐越自動車道など、三和町の主要道路の存在をアピールし、車による通勤等の移動が意外にしやすいことや、三和を訪れる際の利便性の良さを知ってもらいます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

(3) 次世代の買い物を活用

施策 16 ネット通販による買い物等が容易であることをＰＲ

・高速インターネット通信を活用したオンラインショッピングやビジネスが容易であることをＰＲし、都市部と変わらない買い物環境であることを知ってもらいます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

施策 17 無人コンビニの導入

・人手不足を補い、24 時間利用も可能な無人コンビニの導入は、生活するエリア内で気軽に買い物ができることから、地域の利便性の向上に効果があるといえます。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

施策 18 ふれあい市場のコンビニ化

・地域の特産品や農産物を提供する三和町ふれあい市場が、さらにコンビニエンスストアの機能を展開することで、地域の活性化を図ることができると期待しています。

【実施指標】……現状：していない　目標：した

(4) 地域の拠点をつくる

施策 19 道の駅等、地域の拠点となるような、人が集まるところを作る

・道の駅や地域の拠点を整備することで、地域住民同士の交流が活発化することが期待されます。

・人々が集まる場所を作ることで、交流や情報共有が行われ、地域内外のつながりが生まれることが期待されます。

・拠点において特産品を開発し販売することで、特産品を求めて三和町に訪れる人が増える等、地域経済への効果が期待されます。

【実施指標】……現状：なし　目標：整備

施策 20 有効な情報を収集し発信するワンストップで済むような組織

・地域の情報を一元化し、三和町に住む人、住みたい人、訪れたい人など様々な階層の人に有益な情報を提供できるような組織が求められています。

・三和町地域振興協議会の法人化により、その役目を担うことが期待されます。

【実施指標】……現状：なし　目標：設立

※ライドシェアとは

Ride（乗る）を Share（共有）するという「相乗り」を意味する言葉であり、自家用車を持つ一般のドライバーが有料で乗客を送迎する制度です。

中山間地域において、地域在住者の自家用車への相乗りを可能にすることで、高齢者等の買い物や通院などの日常生活の移動を支援することができることから、公共交通機関の不足を補う制度として、今後の活用が期待されています。